

大阪回生病院図書室における オンライン文献検索利用状況

大阪回生病院図書室
加 島 民 子
Kashima, Tamiko

I. はじめに

当院はベッド数350床、職員数400余名の、大阪市内にある中規模の私立総合病院である。図書室は蔵書3,500冊、現行受入雑誌150種、職員専任1名の、これも近畿地区60病院で組織する近畿病院図書室協議会の統計によるとちょうど中間に位置する規模である。

オンライン検索は1980年4月に、1診療部長による端末機の寄贈という異例の導入で開始した。3年半が経過した現在、図書室サービスのひとつとしてほぼ定着しつつある。

今回、1981年10月から1983年9月までの2年間の利用状況と、さらに1982年4月から、1983年3月までの1年間については、検索内容を特にJOIS-MEDLINE検索を中心に調査した。

調査結果をもとに、利用者の動向、図書室のサービス態勢を考察し、病院図書室におけるオンライン検索の現状を報告する。

II. 利用概況

調査期間（1981年10月－1983年9月）2年間のオンライン検索件数は276件であった。

1. 利用者の所属別件数

2年間の利用者数と検索件数を利用者の所属別にみると表1のとおりである。当院の職員以外の

表1 所属別利用状況（1981.10－1983.9）

所 属 内 訳		利用者数	%	検索件数	%
院 内	医 師	36	67.9	149	54.0
	看 護 婦	1	1.9	1	0.4
	検 査 技 師	2	3.8	3	1.1
	図 書 室	1	1.9	2	0.7
	小 計	40	75.5	155	56.2
院 外	病院図書室	10	18.8	114	41.3
	医療専門学校図書室	1	1.9	5	1.8
	個 人	2	3.8	2	0.7
	小 計	13	24.5	121	43.8
総 計		53人	100%	276件	100%

日本医学図書館協会の許可を得て、「第18回医学図書館員研究集会論文集（1983）：p.301-307」より転載

外部からの利用者が、利用者の24.5%、件数の43.8%と高率を示している。これは、近畿病院図書室協議会の共同事業の一環として、当図書室がオンライン検索を受け持っているからである。担当者1名の図書室で、院外からの申込みに応じることは、かなり負担ではあるが、キーワードの選択や検索式は申込病院で準備し、端末機を叩くだけのサービスを原則として受け付けている。申込みのあった病院のうち、1病院は最近端末機を導入し、2病院では図書室から病院へ端末機の購入を申請中である。

院内の利用では医師が圧倒的に多く、利用者の90%、件数の96%を占める。看護婦やパラメディカルスタッフの利用を促進するにはPRや利用指導について十分検討する必要があるだろう。

2. 医師の利用率

当院は診療科が14科に分かれ、医師数は調査期間の在職者53名である。表2は診療科別にみ

表2 診療科別医師利用状況

科別医師数	A5	B6	C8	D5	E3	F4	G2	H4	I3	J3	K2	L4	M1	N3	計	53人
利用者	5	6	7	4	2	1	1	3	3	1	1	1	1	0		36人
利用回数	37	36	18	13	13	9	6	5	4	4	2	1	1	0		149回

た医師の利用状況である。14診療科のうち13科の医師が利用し、利用経験のある医師が8割以上を占める科が6科である。診療科別の利用頻度の最も多い2科(37回、36回)で全体の50%を占めている。この2科のうちA科は検索費用を個人負担ではなく、科の研究費で負担している。またB科はオンライン端末機を当図書室に寄贈した部長の所属する科である。この2科から推察するに、「文献情報に対する要求の度合」と「検索料金の経済性」の二つが利用者がオンライン検索の利用を決める大きな要素のようである。

表3は医師の個人別利用頻度である。53名の在職医師のうち36名が利用しており、68%の

表3 医師個人別利用頻度

利用回数(回)	13	12	10	9	7	6	5	4	3	2	1
医師数(人)	1	1	2	2	1	1	3	3	4	3	15

利用率である。この率は大学医学図書館や病院図書室のオンライン利用状況報告^{1) 2)}と比べると高いといえる。但し、2年間で1回のみ利用者が15名で42%を占めている。

3. 利用目的

利用目的については正確な記録が取れていないので、数値では表せないが、臨床検討が最も多く、次いで学会発表、論文作成が多いようである。2年間に学位論文のための検索が2件あり、また、教科書あるいは総説論文の執筆のためが数件あった。これらは、もれなく網羅的に探すことを要求

され、再現率が重視されるが、通常、臨床検討などの目的の場合は、再現率より適合率に注意が払われる。孫引きするための、新しい文献10件ぐらいをオンラインで検索するというケースもかなりあり、この傾向は後述する検索期間にも表れている。適合率を上げるために、フリータームもよく使用する。中にはMeSHを使わずに、フリータームのみで検索した例もある。この場合には、フリータームの選択を慎重に行い、また再現率が下がることを利用者に承知してもらう必要がある。

Ⅲ. 1982年度の検索状況（JOIS-MEDLINEを中心に）

以上が過去2年間のオンライン検索利用者の概況である。さらに、1982年度（1982年4月—1983年3月）に限定して、検索内容について、主にJOIS-MEDLINE検索の打出しリストに基づいて調査した。

1. 検索概要

表4は1982年度に実施したオンライン検索のシステム別・データベース別にみた概要である。年間検索件数は141件で月平均12件である。月別では最高が30件、最低が4件で、かなりバ

表4 1982年度オンライン検索概要

	総件数	141件	月平均 12件
システム別	JOIS	114件	但、両システム 併用検索 9回
	Dialog	27件	
データベース別	MEDLINE	126件	但、両データベース 併用検索 12回
	Excerpta Medica	18件	
検索時間	JOIS	16.5時間	1件平均 8.7分 13.5分
	Dialog	6.1時間	
検索料金	JOIS	207,900円	1件平均 1,825円 4,851円
	Dialog	130,980円	

ラツキがある。システム別ではJOISが85%を占め、データベース別ではMEDLINEが88%と多い。複数システムあるいは複数データベースを使った検索も増えつつある。調査期間には含まれないが、これまでにシステムではJIP/BRS、データベースではJMEDICINE、PRE-MED、BIOSIS、CAの使用経験があるが、件数はごく少数である。1件当りの時間・料金を比較すると、DialogはJOISの利用時間の1.6倍、料金は2.6倍となっている。Dialogの利用はJOIS-MEDLINEでの結果が思わしくない場合に、Excerpta Medicaで探すというケースが多く、しかも抄録を打ち出すことも多いので、このような結果になるのであろう。

システムやデータベースの選択は、ほとんどの場合図書館が行い、検索料金や使い易さが決定要

素になる傾向も強い。検索内容に応じて、最も効率的なシステム・データベースを選択すべきであろう。

2. JOIS-MEDLINE 検索

1982年度のJOIS-MEDLINE検索114件について、検索の流れにそって検索内容を調査した。

(1) 検索期間

表5はファイル別にみた検索期間別件数である。ファイル構成は1982年10月に変更され、

表5 検索期間（JOIS-MEDLINEファイル別）

ファイル	年 代	件 数	%
SDI	検 索 当 月	3	2.6
110のみ	1980-当 月	51	44.7
110-111	1975-当 月	43	33.7
110-112	1972-当 月	13	11.4
111-112	1972-1979	2	1.8
112のみ	1972-1974	2	1.8

但、1982年9月以前のファイル構成

110 = 1981-当月 111 = 1976-1980 112 = 1974-1975

現在1972年以降のオンライン検索が可能である。最新ファイル(110)の検索が多く、全体の48%を占める。JOISの検索機能に、質問登録YSAVEが導入され、更に呼出しとしてYSTEP機能が使えるようになり、遡及検索の効率は大巾にアップした。

(2) 一次検索

一次検索ではMeSHタームの使用が圧倒的に多い。ほかに、フリーターム検索や著者検索・雑誌名検索などを行っている。(表6)

フリータームは73個使用し、MeSHタームを使わずにフリータームのみで検索したケースが5回あった。雑誌名検索は図書室所蔵あるいは手持ちの雑誌に限って検索する時に使用した。今すぐに読みたいという要求である。著者検索は書誌事項の確認と、一医学者の業績を知る目的で使用した。

表6 JOIS-MEDLINE一次検索項目

一次検索項目	使用回数
MeSHターム	264
(@(狭い検索)	98)
(副件名	43)
フリーターム	73
著者名	2
雑誌名	2
化合物番号	1

MeSHタームは計264個、1件当たり平均2.4個使用した。そのうち@を使って文献の中心主題に限定した検索は98回で37%である。MeSHのカテゴリー別にみると(表7)、C(疾病)カテゴリーが最も多く、中でも新生物のC4コードは、疾病用語の3分の1を占めている。副件名(subheadings)の使用は17種類43回で十分使いこなせていない。よく使用する副件名は、SU(手術)、SC(腫瘍再発)、TH(治療)などである。1980年にMeSHに追加されたSCは原発癌に限定する場合に、否定(not)論理式としてよく使用する。

表7 MeSHカテゴリー別使用頻度

MeSHカテゴリー	使用頻度	%
A 解剖	43	16.3
B 動植物	6	2.3
C 疾病	158	59.8
D 化学物質・薬品	23	8.7
E 分析・診断・治療技術	16	6.1
F 精神医学・心理学	2	0.8
G 生物学	7	2.6
H 物理科学	3	1.1
I 人類学・教育・社会学	1	0.4
J 工業・農業・食物	1	0.4
K 人文科学	0	0
L 情報科学	0	0
M 人の集団	4	1.5
N 健康管理	0	0
Z 地名	0	0
	264	

(3) チェックタグ

表8はチェックタグの使用頻度である。チェックタグは、申込者が制限していても、検索主題で既に限定されてチェックする必要のない場合(例えば、対象生物が人間以外はあり得ないような検索主題の場合のHuman制限)や、検索結果の文献が少ない場合などは、省略することが多い。表8は申込書の希望ではなく、実際にオンラインで二次検索した回数である。

表8 チェックタグ使用頻度

チェックタグ	使用頻度
対象生物 人間のみ	22
年齢層	13
性別	1
妊娠	1
Review	2
Case Report	2

(4) 言語指定

申込者が希望する文献の言語は英語と日本語が圧倒的に多いが、JOIS-MEDLINEでも抄録が打出されるようになって、全言語を希望するケースも増えつつある。表9は二次検索として入力した言語指定の件数を表わ

している。チェックタグと同様に、文献数の少ない場合には、指定されていても全言語で打出することも多く、43%を占めている。

(5) 出力形式

検索結果の打出しは、ほとんどが書誌事項のみである。キーワード付きで出力した回数は29回

(全件数の25.4%)、さらに英文抄録を付けての出力は少なく、13回(11.4%)である。必ず抄録付きを希望する利用者もいるが、たいていは書誌事項のみを希望している。しかし、うまくヒットしなくて戦略を変えて検索した場合や、非常に文献数が少ない時には、キーワードや抄録をつけて出力することがある。

(6) 打出し文献数

1年間の総打出し文献数は2,059件で、1回の検索で平均18件である。最高は100件で学位論文用の検索であった。該当文献0件という結果が2件あった。当図書室では検索結果についての利用者の評価を記録しておらず報告できるデータはない。インタビューや検索後の利用者との会話を通して感じ取れることは、一般に高いヒット率が得られるのは、研究テーマを持っている臨床医が、症例をいくつか集めて検討する場合であり、逆にあまり良い結果が得られないのは、非常に珍しい1症例について、種々の観点から臨床像を把えて検討するというケースである。

検索結果の検討は、オンライン検索の品質管理に欠かせない最も重要な要素である。利用者、図書室担当者双方の多忙を理由に怠ってきた検索結果の評価について、何らかの手段を講じて実施する必要がある。

IV. まとめ

今回の調査を通して、これまで漠然ととらえていた当図書室のオンライン検索の実態がある程度鮮明になった。院内の医師の3分の2以上が少なくとも1回以上オンライン検索を利用しているという数値は担当者の予想を上廻っていた。院外からの利用も増加の傾向にある。医師以外の利用については伸びがみられず、利用指導を積極的に行う必要がある。また実際の検索内容についてみる

表9 言語指定

指定言語	検索件数	%
全言語	49	43.0
英語・日本語	49	43.0
英語のみ	6	5.3
英語・日本語・独語	5	4.4
日本語のみ	3	2.6
英語・日本語・独語・仏語	2	1.7

と、システムやデータベースの選択、検索戦略の決定に、担当者側の判断が優先しがちである。これらの結果から、今後の課題として、まず何らかの方法を講じて、検索結果をより客観的に評価する必要がある。その上で効果的なサービスを提供すべく、担当者は検索技術の向上に努めなければならない。オンライン検索利用の増加の傾向は、早晚、担当者1名の病院図書室の運営全般について体前の立て直しを迫るであろう。

引 用 文 献

- 1) 玉井淑子：JOIS導入一年半の記録 利用状況と問題点。第16回研究集会論文集，301-310，1982。
- 2) 足立純子：聖路加国際病院医学図書室におけるオンライン検索利用状況。オンライン検索，3：85-90，1982。

参 考 文 献

- (1) 平賀三恵子：日本医科大学図書館におけるJOIS-Ⅰの利用状況(1978.7.20-1981.3.31)。オンライン検索，3：2-11，1982。
- (2) 笈田京子：帝京大学医学図書館におけるオンライン文献検索の利用状況。オンライン検索，3：112-115，1982。
- (3) 森正智子：昭和大学図書館におけるJOIS-Ⅱの利用状況。オンライン検索，4：9-11，1983。
- (4) 高橋進：東邦大学医学部図書館におけるオンライン文献検索利用状況。オンライン検索，4：34-37，1983。
- (5) 堤典子：岡山大学医学図書館におけるJOIS利用状況—実態調査に基づく—。第17回医学図書館員研究集会論文集，247-251，1983。